

科目コード	T110205		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	TOEIC I [①]		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEICの各PARTについて詳細な解法手法を提示し、高得点の獲得を目指す。

<授業の到達目標>

TOEICの各PARTについて、一つずつ丁寧に解説し、TOEIC本試験で500点台に到達することを目標とする。また、英語の使用に慣れた学生においては実用域である700点台以上のスコアを獲得するために必要な知識・技能を身につける。

<授業の方法>

各パートの模擬問題を行いつつ、必要な解法手法を提示し、手法通りに問題を解く練習を行う。また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

TOEIC IPテスト（期末） 40%小テスト（語彙・リスニング確認等） 20%課題（オンライン課題・演習問題等） 20%授業参加・授業内活動（演習・グループワーク等） 20%

<教科書>

早川幸治TOEIC L&Rテスト書き込みドリル桐原書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Part 1 人物の動作と状態、物の状態と位置	Part 1で出題される発話文の文法を確認するほか、穴埋めリスニングを行い確実に文の内容を聞き取る練習を行う。
2	Part 2 疑問詞を使った疑問文、基本構文と応答の決まり文句、Yes/No疑問文	Part 2で出題される会話文の提携パターンを学ぶ。
3	Part 1, Part 2演習、Part 5 品詞	過去2回分の確認を図るリスニングテストの実施。また、問題を実際に作成し全体で解き合う。Part 5では頻出する品詞問題の解説を行う。
4	Part 5 動詞、代名詞、関係代名詞	Part 5で必ず出題される文法項目の確認及び練習問題を解く。
5	Part 5 接続詞・前置詞、Part 5復習	Part 5の難関問題である接続詞・前置詞の問題の解説を行う。そのうえで、文法問題の総復習を行う。
6	TOEICハーフ模試及び解説	これまで学んだことの確認をするために、実際の問題の半分の量のTOEICを模試として解く。
7	Part 3 日常場面での会話、電話での会話、オフィスでの会話①、オフィスでの会話②	Part 3で出題される頻度の高い会話文を聞き取る方法を学ぶ。
8	Part 4 アナウンス・ツアー、ラジオ放送・宣伝	Part 4で出題される頻度の高いスピーチ文を聞き取る方法を学ぶ。
9	Part 4 留守番電話、トークスピーチ・会議の一部	図表を伴うスピーチ文の聞き取り方法を学ぶほか、先読みができない場合の対処法を習得する。
10	Part 3, 4の復習	Part 3, 4の模擬問題を解答し、これまでの解答手法を習得できているか確認する。
11	Part 7 Skim Reading	Part 7の攻略に必要な速読で求められるSkim Readingを実践する。
12	Part 7 表・用紙、広告、チャット、手紙・Eメール	前回学んだskim readingを使ってpart 7の様々な問題を解く。
13	Part 7 ダブルパッセージ、トリプルパッセージ	時間のかかる複数パッセージ問題への取り組み方、skim readingの仕方を説明し問題を解く。
14	Part 6 時制・代名詞・語彙問題、つなぎ言葉・文の挿入	Part 6の全パターンの解説を行ったうえで、各パターンの解答手法を学ぶ。

科目コード	T110101		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語 I [①]		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、他者との会話演習を実施することで、必要となる情報を英語で時間をかけることなく伝える練習を行う。また、まとまった英語を聞き取り、その内容について、自身の言葉で説明する練習を行う。

<授業の到達目標>

1. 基本的な文法を用いて、他者に英語で発話をすることができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、回答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を把握することができる。

<授業の方法>

本授業では、講義、演習、ペアワークおよびグループ活動を組み合わせながら授業を進める。語彙・文法・リスニング・リーディング等の英語運用能力を高めるため、実践的な課題やミニゲーム等も取り入れ、学生の主体的な参加を促す。また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。授業では理解度を確認するための小テストや演習を適宜実施し、学生同士のディスカッションや発表活動を通して学習内容の定着を図る。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回） 口頭試問①：15点 口頭試問②：20点

<教科書>

使用しない（独自プリント配布）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	自己紹介の英語	相手に響く英語での自己紹介とその深掘りに必要な語句を習得する。
2	現在形・過去形：習慣に関する英語	現在形と過去形のほか、頻度副詞を用いて、グループで情報を集め、集めた内容について英語で共有する。
3	未来表現：未来の予定について述べる	be going to, will, be V-ingの表現を用いて、個人のスケジュールを説明するほか、他者に質問をしながら予定を埋める練習を行う。
4	助動詞：能力について述べる	can, be able toの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
5	助動詞：義務・提案の表現	must, have to, shouldの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
6	助動詞：可能性の表現	must, should, may, can, will, would, couldの表現を用いて可能性を説明する練習を行う。
7	口頭試問①	第1回～第6回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。
8	現在完了形	経験、継続、完了について現在完了形の意味を理解したうえで、出来事の詳細を説明する練習を行う。
9	仮定法現在	将来起こり得ることについて、第6回で学んだ助動詞を用いて説明する練習を行う。
10	仮定法過去・仮定法過去完了	事実と反する内容について説明する練習を行う。
11	関係詞	関係代名詞と関係副詞を用いて、示された事象について詳細な説明をする練習を行う。
12	比較級	同格を含めた比較の表現を学び、様々な事象やデータについて比較する練習を行う。
13	接続詞	接続副詞など、文と文をつなぐ表現を正確に把握したうえで、実際の英会話において使う練習を行う。
14	口頭試問②	第7回～第13回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。

科目コード	T230301		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ホスピタリティ論		担当者名	都築 智津子			○		
			実務経験との関連	ホテル運営会社の社員・管理職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ホスピタリティの基本的な概念と、その社会的な必要性について学ぶ。観光産業に限らず、学校生活・地域社会・アルバイト・日常の対人関係など、あらゆる場面に共通する「相手の立場に立って考え、行動すること」を中心テーマとして取り扱う。学生自身の体験を振り返りながら、思いやり・気づき・コミュニケーション・多様性への配慮といったホスピタリティの要素を理解し、実生活で応用できる力を身につけることを目指す。授業では、観光・サービスにおけるホスピタリティの役割、文化による違い、消費者心理の基礎、困っている人への配慮、感情の理解、テクノロジーとの関係など、幅広いテーマに触れていく。ワークショップやディスカッション、身近な事例分析を通して、学生自身が「良い体験とは何か」「真のホスピタリティとは何か」を考える機会を提供する。

<授業の到達目標>

- ・ホスピタリティの基本的概念を説明できる・お客様（相手）の立場に立つとはどういうことかを理解し、行動に結びつけられる・消費者心理の基礎を理解し、顧客体験を分析できる・真の顧客サービスについて自分の言葉で論じることができる・日常生活・学校生活・アルバイトにおけるホスピタリティ行動を考察できる・多様な相手や文化に配慮したコミュニケーションができる

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り（10分）
 2. 講義（40分）
 3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（40分）
 4. 意見交換/まとめ（10分）
- ※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間テスト 30%、最終テスト 40%、授業態度 30%

<教科書>

なし

(株)JAL航空みらいラボ（2026年2月18日）やさしく学ぶ ホスピタリティの世界インプレス

<参考書>

青木義英（2013年4月6日）新版 ホスピタリティ入門新曜社

林田正光（2007年2月14日）ホスピタリティの教科書 図解版あさ出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・導入ワーク	・授業の進め方、目的の共有・「ホスピタリティとは？」を考える（グループワーク）・ホスピタリティに関わる身近な体験（良い体験・悪い体験）を言語化
2	ホスピタリティの基本概念	・ホスピタリティの意味・語源・定義・ホスピタリティとサービスの違い・「相手の立場になる」とは
3	日常生活のホスピタリティ	・家庭・学校・友人関係でのホスピタリティ・気づき能力を高めるワーク・小さな行動が与える心理的効果
4	観光とホスピタリティ	・観光におけるホスピタリティの重要性・観光客心理の基礎・地域と訪問者の関係を理解する
5	消費者心理の基礎①（感情のしくみ）	・心理学の初歩（感情・期待・安心の構造）・「嬉しい体験」が生まれる背景とは？
6	消費者心理の基礎②（行動のしくみ）	・行動の背後にある心理・顧客が満足する／不満足になるプロセス・期待ギャップと顧客ロイヤルティ（基礎編）
7	中間振り返り、理解確認	・学習内容の振り返り（グループワーク、振り返りシート提出）・1～6回の理解度確認
8	中間試験振り返り・コミュニケーションとホスピタリティ	・中間試験採点・振り返り・「聴く力」「伝える力」・第一印象の重要性・非言語コミュニケーション・ロールプレイ演習
9	身近な接客現場におけるホスピタリティ	・「聴く力」「伝える力」・第一印象の重要性・非言語コミュニケーション・ロールプレイ演習
10	日本文化の「おもてなし」と世界のホスピタリティ	・おもてなしの歴史と文化的背景・海外との比較と文化の違い・ステレオタイプとその危険性
11	多様性配慮とインクルーシブホスピタリティ	・年齢・国籍・性別・障がいなどの多様性への理解・ユニバーサルデザインの基礎・困っている人に「自然に手を差し伸べる」ために必要な視点
12	働く人のホスピタリティ（感情労働）	・スタッフの負担とケアの必要性・ホスピタリティを生む組織文化
13	全体振り返り、理解度の確認、総合ワーク（事例分析）	・学習内容の振り返り（グループワーク、振り返りシート提出）・全体の理解度確認
14	まとめ	・「ホスピタリティとは何か、私にとっての意味」（グループワーク）

科目コード	T110209		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育実技 I [a]		担当者名	小川 千尋			○		
			実務経験との関連	民間保育療育会社（個別運動療育施設）において、運動療育士としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	1.00	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋内スポーツであるバレーボール、バスケットボール、バドミントン等を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に室内で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ (10分) 2. 本時の学習の確認 (10分) 3. 基礎技術の練習 (20分) 4. グループ活動 (20分) 5. ミニゲーム、試合 (30分) 6. 振り返り・片付け (10分) UNIVERSAL PASSPORTによる課題提示 Googleフォームを使用した授業のリフレクションを毎授業で実施

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ（チーム）内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。〔受講上の注意〕グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

授業時に指示

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
2	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
3	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
4	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
5	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
6	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
7	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
9	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
10	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
11	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
12	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
13	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
14	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施

科目コード	T220104		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記入門 I [再履]		担当者名	末原 聡			○		
			実務経験との関連	民間会社の経理担当社員・会計事務所所員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）というシステムの基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。問題集を利用して、一つ一つの論点を確実に理解することに重点を置く。全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験「3級商業簿記」（以下「全経3級」）を履修者全員が受験し、合格することを目標とする。

<授業の到達目標>

① 全経3級に合格するための知識を身につける② 簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ③ 基本的な取引の仕訳ができるようになる④ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する

<授業の方法>

①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること④手書きの問題演習を主体とする⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度・授業の課題など60%：期末テスト40%フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

<教科書>

(監修)新田忠誓 (編著)桑原知之 2024年2月20日全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記ネットスクール出版
(編著)TAC株式会社 2025年2月27日よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0TAC出版

<参考書>

(編著)TAC株式会社 2025年2月27日よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング日商簿記3級Ver15.0TAC出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	身の回りの簿記
2	仕訳と転記	仕訳 勘定と転記 仕訳帳と総勘定元帳
3	現金と預金	現金と預金 当座預金 小口現金
4	商品売買	三分法 掛取引 返品 商品売買に係る帳簿 売上原価対立法
5	その他の収益と費用	収益の受取り 費用の支払い
6	決算の手続き①	決算とは 試算表の作成
7	その他の債権債務	貸付金と借入金 未収金と未払金 前払金と前受金
8	一時的な処理	仮払金と借受金 消費税の処理 立替金・預り金と給料の支払い 現金過不足
9	有価証券と有形固定資産	有価証券の取得・期末評価 有形固定資産の取得・減価償却
10	株式の発行	株式の発行 株式会社の資本構成
11	決算の手続き②	決算整理記入 売上原価の計算 貸倒の見積もり
12	決算の手続き③	消耗品費の処理 費用の繰延べ 費用の見越し
13	精算表①	精算表の作成方法
14	精算表②	損益計算書と貸借対照表 帳簿の締め切り

科目コード	T110206		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	TOEICⅡ [①]		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEICの各PARTを、時間を計りつつ実践形式で解く練習をする。本番を想定した解答手法を学び得点アップにつなげる。

<授業の到達目標>

現時点で保有するTOEICスコアを100～200点上げることが目標とする。

<授業の方法>

実践形式で解き、間違えたものについてその理由を自ら理解する力を身につける。独学でTOEICのほか、英語学習するために必要な自己理解力の客観的把握を図る。また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

TOEIC IPテスト（期末） 40% 小テスト（語彙・リスニング確認等） 20% 課題（オンライン課題・演習問題等） 20% 授業参加・授業内活動（演習・グループワーク等） 20%

<教科書>

TOEIC TEST講座TOEIC TESTスコア激伸び模試 3回分 新形式問題対応編TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Part 1, 2	TOEICで特に落とせない問題をピックアップし、すべて正答するために必要な知識・技能を学ぶ。
2	Part 5	文法事項を総ざらいし、語彙問題にも対応できるように接尾辞や接頭辞から意味を汲み取る練習を行う。
3	Part 5, 6	文法問題を素早く間違いなく解くために必要な文の見どころを再整理する。
4	Part 3	会話文の聞き方と、話者の意図を示す部分の聞き取り練習を行う。
5	Part 4	スピーチ原稿で出現するパターンや、難解なテーマに関する発話の聞き取り方を学ぶ。
6	TOEICハーフ模試	これまで学んだことの確認をするために、実際の問題の半分の量のTOEICを模試として解く。
7	Part 2, 3	得点源になるセクションで難解な問題を中心に正答する方法を学ぶ。
8	Part 3, 4	話者の意図を的確に把握するために必要な形容詞について学ぶ。
9	Part 5, 7	正答を導くために必要な語句や文章の把握を瞬時に行う練習をする。
10	Part 6, 7	文法規則から、読解を読み解く方法を学ぶ。
11	Part 1-4	リスニングセクションを解き、ミスをした理由を突き止めるとともに、同じミスをしないために必要な方策を伝授する。
12	Part 5-6	リーディングセクションを解き、ミスをした理由を突き止めるとともに、同じミスをしないために必要な方策を伝授する。
13	Part 7	精読が必要になる読解問題の攻略法を学ぶ。
14	Part 3, 4, 7	これまでの総復習を行う。

科目コード	T230302		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ホスピタリティ・マネジメント論		担当者名	都築 智津子			○		
			実務経験との関連	ホテル運営会社の社員・管理職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

サービスとホスピタリティの共通点・相違点を理解し、なぜ今日ホスピタリティが重視されるのかという社会的背景を学ぶ。さらに、顧客満足（CS）と従業員満足（ES）を軸としたサービス・マネジメントの基礎を押さえた上で、観光・宿泊・飲食・小売・交通・医療などの業界別ホスピタリティの特徴を比較し、現場での課題を多面的に考える。中盤以降は、ヒトのマネジメント（育成・関わり方・チーム運営）に重点を置き、DX（IT）と人との役割分担も検討する。最終的に、学習内容を総合してより良い体験を生むための改善案を考えられる力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

・サービスとホスピタリティの共通点・相違点を説明できる・ホスピタリティが現代社会で重視される理由を述べられる・業界別（観光・宿泊・飲食・小売・交通・医療）のホスピタリティの特徴を比較できる・CS（顧客満足）とES（従業員満足）の関係を理解し、サービス改善に活かせる・サービスプロセス（受付・提供・会計・フォロー）を分析し、改善点を考えられる・“ヒト”を中心にした関わり方、育ちを支える基本を理解する・DX（セルフレジ、AI接客など）がホスピタリティに与える影響を理解し、人との役割分担を考察できる・事例をもとに課題を整理し、適切な改善策を提案できる

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り（10分） 2. 講義（40分） 3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（40分） 4. 意見交換/まとめ（10分） ※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。 ※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間テスト 30%、最終テスト 40%、授業態度 30%

<教科書>

なし

服部 勝人（2008年4月1日）ホスピタリティ・マネジメント入門 第2版丸善

<参考書>

金子章予（2024年4月22日）ホスピタリティ概論学分社

高野登（2005年9月6日）サービスを超越する瞬間かんき出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンスと導入	・ホスピタリティ論の復習・運営（提供）側の視点で良い／悪いサービス体験を言語化
2	サービスとホスピタリティの共通点・相違点	・基本用語の整理による概念の理解・標準化（マニュアル化）と裁量（状況に応じた対応）の違いとバランスの把握・ロールプレイ等による感じ方の違いの体験
3	今ホスピタリティが重視される理由と社会背景	・経済環境の変化とSNS等による体験共有の拡大の理解・顧客が求める価値の多様化の把握・利用前～利用後までの体験の見える化（カスタマージャーニー）
4	業界別ホスピタリティ①（観光・宿泊・飲食）～業界の特性とヒト・サービス・プロセスの視点による比較～	・観光地・ホテル・飲食店におけるホスピタリティ要素の比較・業界ごとのお客様の特徴・滞在時間・接客の流れの違いの把握・ホテル／カフェ／レストランの体験差を用いたケース分析
5	業界別ホスピタリティ②（小売・交通・医療・自治体）～“待ち時間・導線・安全性・専門性”が求められる領域の比較～	・小売における導線・陳列・買物行動の理解・交通における安全・スピード・安心の把握・医療におけるケア・説明責任・倫理の理解・自治体・観光案内における情報提供と満足度の両立の把握・ケース演習による業界別の「人材に求められる力」の比較
6	CS/ESの関係（サービス・マネジメントの核心）～お客様の満足とスタッフの働きやすさをつなげて考える～	・お客様の満足（CS）とスタッフの働きやすさ（ES）とのつながりの理解・働く人のやる気や職場定着に関わる基礎知識の把握・ワーク：自身のアルバイト体験をCS/E S双方で考える
7	サービスプロセスの設計と体験価値（EXとCX）～サービスの流れを分けて見直し、体験をより良くする視点の理解～	・受付から会計・フォローまでのサービスの流れの分解・混雑や待ち時間がお客様に与える印象の理解・サービスの流れを短時間で見直すミニ演習の実施
8	中間振り返り＋中間試験（理解確認）	・学習内容の振り返り（グループワーク、振り返りシート提出）・1～7回の理解度確認のテスト
9	中間試験振り返り＋ヒトのマネジメント①（育成を支える基礎）	・中間試験採点・振り返り・仕事に必要な基本動作と心構えの整理・先輩と新人の関わり方（声かけ・振り返り）の実践・教えるための簡単な手順づくり
10	ヒトのマネジメント②（評価・モチベーション・心理的安全性）	・接客の基本行動と、その場での良い判断につなげる声かけの工夫の理解・安心して意見や気づきを伝え合える雰囲気づくりの把握・伝え方をやわらかく言い換える練習（クレーム予防・サービス回復への応用）

11	リーダーシップとチーム運営	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー／マネジャーの役割の違いの理解（方向づけと支え合いの把握）・チームで伝わるコミュニケーションの型の習得（共有・確認・依頼の整理）・良い連携が生む体験向上のイメージ化（先回り・フォローの見える化）
12	IT・DXとホスピタリティ・マネジメント ～デジタル化を、人とサービスを助ける仕組みとして捉える～	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフチェックインや予約サイトなど、便利さを生むデジタル仕組みの理解・在庫管理・混雑予測など、運営を助けるデジタル活用の把握・AI と人の役割の違いの整理と、適切な分担を考える演習・デジタル化が働きやすさに与える良い面と注意点の理解
13	クレーム対応・サービスリカバリー／総合ケース	<ul style="list-style-type: none"> ・謝る・気持ちを受け取る・状況を伝える・別案を示す・フォローにつなげる流れの理解・ホテル・カフェ・交通・医療など、さまざまな場面を使ったケースの把握・チームで課題を整理し、より良い対応につなげる改善案づくりの実施
14	最終試験振り返り、まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・最終試験・試験の振り返り

科目コード	T230102		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	流通論		担当者名	高橋 有弥			○		
			実務経験との関連	ビジネス系専門学校教員・管理職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第1クオーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ビジネスにおける商品流通（「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」）の重要性について学んでいきます。また、経済環境と消費者の変化、そして、情報技術が発展していく中における国内外の卸売業及び小売業の近年の動向についても学び、日本と海外の流通機構の違いなどについても学んでいきます。加えて、流通産業におけるDX化やグローバル化について、大手流通企業の事例を用いて実践的に学んでいきます。

<授業の到達目標>

①ビジネスにおける流通機構の役割の理解②国内外の流通産業の動向の理解及び日本と海外の流通機構の違いの理解③流通産業における時代の変化に合わせた進化（DX化、グローバル化など）の理解

<授業の方法>

講義

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題 40%、中間レポート 20%、授業態度・参加度40%

<教科書>

井上崇通, 村松潤一, 庄司真人 (2023/3/29) ベーシック流通論 (第2版) 同文館出版

<参考書>

上原 征彦・坂上 眞介 (2008/3/11) 手に取るようにわかる小売・流通がわかる本かんき出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業概要の説明・オリエンテーション 流通とは・・・マーケティングと流通論の関係・社会における流通の役割について	「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」についての詳細を学ぶ
2	流通の役割	5つの「隔たり」とそれらをうめる4つの「流」について事例研究を通じて学ぶ
3	卸売業と小売業の分類・日本の流通の特徴について	卸売業・小売業の分類、商品仕入形態、日本の流通業界の特徴などについて事例研究を通じて学ぶ
4	小売業とその業態と機能について（1）	小売業は、メーカーや卸売業者から商品を仕入れ、最終消費者に販売する事業者である。小売業における業態とそれらの機能について学ぶ
5	小売業とその業態について（2）・小売業におけるDXについて	継続して、小売業の業態について学ぶと共に、顧客体験の向上、業務の効率化などの小売業におけるDX化について事例研究を通じて学ぶ
6	日本と世界のGMS（総合量販店）について	近年の国内外のGMSの営業活動などについて事例研究を通じて学ぶ
7	卸売業の役割とは・・・	近年の国内卸売業界再編の動きについて総合商社の動きなどについて事例研究を通じて学ぶ
8	地域密着型小売業について	スーパーマーケットやドラッグストアの地域密着型戦略について
9	ショッピングセンター(SC)・ショッピングモール(SM)・アウトレットモールについて	ショッピングセンターなどに求められる提供価値や機能について学ぶ
10	流通戦略（小売業）について	商品を効率的に消費者に届け、顧客満足度と利益を最大化する戦略について事例研究を通じて学ぶ
11	流通戦略（卸売業）について	卸は、メーカーと小売の間の橋渡しとして、いかに効率と付加価値を生み出すかについて事例研究を通じて学ぶ
12	流通戦略（製造業）について	製造業の流通戦略は、マーケティング・ミックス(4P)の「Place」に該当し、商品・サービスを顧客に届けるプロセス全体を最適化する戦略であることを事例研究を通じて学ぶ
13	流通戦略（全般）について	事例研究：大手製造業や小売業企業の事例を用いて、流通戦略について学ぶ
14	まとめ	1回～13回の授業の振り返り

科目コード	T110102		区 分	専門基礎		実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	英語Ⅱ [①]		担当者名	古賀 敢人		○			
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、英語Iで学んだ英語文法を用いて発展的な会話練習を行う。実際の使用現場を意識しながら、他者との会話演習を実施することで、語学運用に必要な実践力を身につける。なお、各授業で文法事項の再確認をするため、英語Iを履修していない学生も履修をすることはできる。

<授業の到達目標>

1. 中級程度の文法を用いて、他者に英語で発話をすることができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、即答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を他者に伝えることができる。

<授業の方法>

本授業では、講義、演習、ペアワークおよびグループ活動を組み合わせながら授業を進める。語彙・文法・リスニング・リーディング等の英語運用能力を高めるため、実践的な課題やミニゲーム等も取り入れ、学生の主体的な参加を促す。また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。授業では理解度を確認するための小テストや演習を適宜実施し、学生同士のディスカッションや発表活動を通して学習内容の定着を図る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回） 中間考査 口頭試問：15点 期末考査 口頭試問：20点

<教科書>

使用しない（独自プリント配布）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	自己紹介で必要なこと	英語での自己紹介で求められる英語力とコミュニケーション力について考えながら実践する。
2	Integrated Speaking入門	示された英文を読み、その内容を他者に伝える練習を行う。パラフレーズの基本的方法について学ぶ。
3	Integrated Speaking実践	示された英文を読み、自らの言葉でその内容を説明するほか、意見を述べる練習を行う。
4	Integrated Writing入門	示された英文を読み、その内容について文章にする練習を行う。パラフレーズをもってより自分の考えを反映した文章の作成に取り組む。
5	Integrated Writing実践	示された英文を読み、その内容について自分の意見で主張する練習を行う。
6	データ分析実践	示されたデータを見て、その内容について英語で説明する練習を行う。
7	中間考査 口頭試問①	英文を読みその内容について自分の意見を述べる。英語力のほか、その内容の妥当性について判断する。
8	ノートテーキング入門	リスニングを聞きメモをとる練習を行う。そのうえで、会話の内容を自分の言葉で説明する練習を実施する。
9	ノートテーキング実践	実際の放送や会話を聞いて、その内容について自らの意見を述べる練習を行う。
10	速読入門	限られた時間で文章を読み、核となる内容を見つけ出す練習を行う。内容について自分の言葉で他者に伝える練習を行う。
11	速読実践	スキムリーディングを実践し、必要となる情報を瞬時に見つけ出す練習を行う。内容について自分の意見を述べる練習を行う。
12	情報補正入門	提示された内容に関して英語を聞き、内容についての正誤を把握し、間違っていれば瞬時に正しい内容に書き直す練習を実施する。
13	情報補正実践	英語で内容を把握しながら、必要となる情報を付け足す練習を行う。具体例や理由などの表現を瞬時に把握し書き出す練習を実施する。
14	期末考査 口頭試問②	英文を読みその内容について自分の意見を述べる。英語力のほか、その内容の妥当性について判断する。

科目コード	T110210		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育実技Ⅱ (a)		担当者名	菊川 理子、小川 千尋			○		
			実務経験との関連	民間保育療育会社（個別運動療育施設）において、運動療育士としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター 第4クォーター	単位数	1.00	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、テニス、フットサル、ラグビー等の屋外スポーツを中心とした活動を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に屋外(テニス・フットサル・ニュースポーツ等)で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる④生涯スポーツとしての位置づけが理解できる⑤リーダーシップおよび協調性、ならびに創造性を身につける

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ (10分)
2. 本時の学習の確認 (10分)
3. 基礎技術の練習 (10分～30分)
4. グループ活動 (10分～20分)
5. ミニゲーム、試合 (20分～30分)
6. 振り返り・片付け (10分)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ（チーム）内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。〔受講上の注意〕グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

授業時に指示

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツの意義と目的 (スポーツ①)	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
2	スポーツの意義と目的 (スポーツ①)	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
3	スポーツ② (集団種目)	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
4	スポーツ② (集団種目)	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
5	スポーツ③ (集団種目)	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
6	スポーツ③ (集団種目)	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
7	スポーツ④ (個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④ (個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
9	スポーツ⑤ (集団種目)	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
10	スポーツ⑤ (集団種目)	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
11	スポーツ⑥ (集団種目)	チーム対抗競技の実施
12	スポーツ⑥ (集団種目)	チーム対抗競技の実施
13	スポーツ⑦ (集団種目)	チーム対抗競技の実施
14	スポーツ⑦ (集団種目)	チーム対抗競技の実施 まとめ

科目コード	T220105		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記入門Ⅱ [①]		担当者名	末原 聡			○		
			実務経験との関連	民間会社の経理担当社員・会計事務所所員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）の基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。簿記入門Ⅰで学んだ知識をもとに、全経3級では取り扱わなかった会計処理や帳簿組織等の論点に重点を置く。日本商工会議所主催の簿記検定試験「3級商業簿記」（以下「日商3級」）を受験し、合格することを目標とする。

<授業の到達目標>

①日商3級に合格するための知識を身につける②簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ③基本的な取引の仕訳ができるようになる④取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する

<授業の方法>

①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること④手書きの問題演習を主体とする⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する積極的な態度、小テストなどの平常点60% + 定期試験40% フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

<教科書>

伊藤 正義（著）2024年2月18日初学者・留学生が合格できる 全経簿記3級テキスト&模擬問題集 ※「簿記入門Ⅰ」と同じ教科書です日本能率協会マネジメントセンター

（監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記ネットスクール出版

<参考書>

（監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記ネットスクール出版

（編著）TAC株式会社 2025年2月27日よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0TAC出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	簿記の基本原理と会計処理
2	期中取引①	商品売買 現金・預金 小口現金 クレジット売掛金
3	期中取引②	手形取引・電子記録債権債務・その他取引
4	期中取引③	さまざまな帳簿の関係 現金出納帳・当座預金出納帳・商品有高帳・売掛金元帳・買掛金元帳
5	期中取引④	さまざまな帳簿の関係 仕入帳 売上帳 受取手形記入帳 固定資産台帳 / 試算表
6	決算①	決算整理仕訳：現金過不足・売上原価・貸倒れ
7	決算②	決算整理仕訳：減価償却・貯蔵品・当座借越
8	決算③	決算整理仕訳：経過勘定項目
9	決算④	決算整理後残高試算表 精算表
10	決算⑤	帳簿の締め切り
11	決算⑥	貸借対照表と損益計算書
12	株式会社会計	株式の発行・剰余金の配当・税金
13	証票と伝票①	証ひょう請求書 領収書 当座勘定照合表 法人税の領収済通知書
14	証票と伝票②	入金伝票 出金伝票 振替伝票

科目コード	T110210		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育実技Ⅱ (b)		担当者名	菊川 理子、小川 千尋			○		
			実務経験との関連	民間保育療育会社（個別運動療育施設）において、運動療育士としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター 第4クォーター	単位数	1.00	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、テニス、フットサル、タグラグビー等の屋外スポーツを中心とした活動を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に屋外(テニス・フットサル・ニュースポーツ等)で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる④生涯スポーツとしての位置づけが理解できる⑤リーダーシップおよび協調性、ならびに創造性を身につける

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ (10分) 2. 本時の学習の確認 (10分) 3. 基礎技術の練習 (10分～30分) 4. グループ活動 (10分～20分) 5. ミニゲーム、試合 (20分～30分) 6. 振り返り・片付け (10分)

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ（チーム）内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。〔受講上の注意〕グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

授業時に指示

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツの意義と目的 (スポーツ①)	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
2	スポーツの意義と目的 (スポーツ①)	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
3	スポーツ② (集団種目)	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
4	スポーツ② (集団種目)	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
5	スポーツ③ (集団種目)	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
6	スポーツ③ (集団種目)	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
7	スポーツ④ (個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④ (個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
9	スポーツ⑤ (集団種目)	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
10	スポーツ⑤ (集団種目)	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
11	スポーツ⑥ (集団種目)	チーム対抗競技の実施
12	スポーツ⑥ (集団種目)	チーム対抗競技の実施
13	スポーツ⑦ (集団種目)	チーム対抗競技の実施
14	スポーツ⑦ (集団種目)	チーム対抗競技の実施 まとめ

科目コード	T110101		区分	本科目は英語Iを不合格になった学生を対象とした再履修者用のクラスである。			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語 I [再履]		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択必修科目（外国語）

<授業の概要>

本授業は、英語Iを再履修する学生を対象とし、英語の基礎的な文法・語彙・読解力および簡単な会話表現の習得を目的とする。高校レベルの基本文法を復習しながら、日常生活や大学生活に関わる英語表現を理解し、英語を読む・聞く・話す・書くという4技能の基礎力をバランスよく身につけることを目指す。また、英語に対する苦手意識を克服し、継続的に学習する姿勢を養うことも重要な目的とする。

<授業の到達目標>

本授業を履修した学生は、以下の能力を身につけることを目標とする。基本的な英文法（時制、助動詞、前置詞など）を理解できる。日常生活に関する簡単な英文を読むことができる。自己紹介や簡単な会話表現を英語で行うことができる。短い英文を書くことができる。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせて授業を行う。文法解説に加えて、ペアワークや簡単な会話練習を行い、英語を実際に使う機会を設ける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業内活動への取り組み（発話量、積極性、協働姿勢等） 40%・課題（提出物・オンライン課題等） 30%・最終発表 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	英語の基本構造	英語の語順（SVO）を理解する。主語・動詞・目的語の役割を確認し、簡単な英文を作る練習を行う。
2	現在形と日常表現	現在形の使い方を学び、日常生活や習慣を表す英文を理解する。簡単な自己紹介や日常活動を英語で表現する練習を行う。
3	過去形	過去形の基本的な用法を学び、過去の出来事を説明する英文を読む・書く練習を行う。
4	未来表現	will / be going to を用いた未来表現を学び、予定や計画を英語で表現する。
5	助動詞	can / must / should などの助動詞の意味と使い方を学び、可能・義務・助言を表す英文を理解する。
6	前置詞と場所表現	in / on / at などの基本的な前置詞を学び、場所や時間を表す表現を理解する。
7	日常英会話	挨拶、依頼、質問など大学生活で使える基本的な会話表現を練習する。
8	英語での自己紹介とまとめ	英語で簡単な自己紹介を作成し発表する。授業で学んだ内容を振り返り、基礎表現の定着を図る。
9	基礎表現の再定着①（時制・基本文）	これまで扱った基本文型・時制を確認し、ペアワークで反復練習を行う。
10	基礎表現の再定着②（疑問文・応答）	簡単な質問と応答を中心に、ミニゲームを通して運用練習を行う。
11	トピック会話①（身近なテーマ）	日常生活に関するテーマで短い会話を行い、発話量の増加を図る。
12	トピック会話②（意見表現）	簡単な意見（好き・嫌い・理由）を英語で伝える練習を行う。
13	発表準備①（構成・表現整理）	最終発表に向けて、テーマ設定と基本構成の作成を行う。
14	発表（フィードバック）	発表を行い、相互に改善点を共有する。

科目コード	T110103		区分	教養（英語）			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語Ⅲ [②]		担当者名	古賀 敢人、Everett Ofori			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	選択必修（外国語）

<授業の概要>

本授業では、英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とし、ミニゲームやアクティビティを多く取り入れながら英語を実際に使う機会を増やす。英語の文法や語彙の復習を行いながら、ペアワークやグループワーク、クイズ、ロールプレイなどのゲーム形式の活動を通して、英語を楽しく学ぶ環境を作ることを目指す。また、英語に対する心理的なハードルを下げ、学生が自発的に発話することを促すことで、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。

<授業の到達目標>

基本的な英語表現を使って簡単なコミュニケーションができる。英語を使ったゲームや活動に積極的に参加できる。英語で自分の意見や経験を簡単に説明できる。英語を使うことへの抵抗感を減らし、学習意欲を高める。

<授業の方法>

本授業は、ミニゲーム、ペアワーク、グループワーク等の参加型活動を中心とした演習形式で実施する。学生が英語を実際に使用する機会を重視し、実践的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業内活動への取り組み（発話量、積極性、協働姿勢等） 40%・課題（提出物・オンライン課題等） 30%・最終発表 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Ice Breaker English	英語での自己紹介ゲーム、クラスのルール確認、簡単な英語ゲームを通してクラスの雰囲気を作る。
2	Vocabulary Game	英単語クイズや連想ゲームを行い、語彙力を楽しく強化する。
3	Conversation Game	ペアでの質問ゲームやスピード会話ゲームを通して英語で話す練習を行う。
4	Guessing Game	英語でヒントを出して答えを当てるゲームを行い、説明力と語彙力を養う。
5	Role Play	レストランや買い物などの場面を想定したロールプレイを行う。
6	Story Game	英語で物語を作るゲームを通して表現力を養う。
7	Team Quiz	チーム対抗の英語クイズを行い、理解度を確認する。
8	English Presentation	簡単な英語プレゼンテーションを行い、授業のまとめを行う。
9	ディスカッション①（意見交換）	賛成・反対の意見表現を学び実践
10	ディスカッション②（問題解決）	グループで課題に対する解決策を検討・発表
11	プレゼン準備①（テーマ設定・構成）	最終発表に向けた企画立案
12	プレゼン準備②（スライド・発話練習）	ペア・グループでの相互フィードバック
13	プレゼンリハーサル	模擬発表と改善
14	最終発表	学生によるプレゼンテーション